

大阪府大阪市

新技法と新商品で伝統製品の需要拡大 本来の良さと若手を活かして未来に繋ぐ

経済産業大臣指定の伝統的工艺品「大阪浪華錫器」の企画・製造・販売を行う。錫器は古くから宮中の器や神社の神具に使われ、江戸時代に一般に広まった。現在は他の伝統工芸産地と同様に規模が縮小しているなか、後継者育成に取組み、若手を積極的に雇用するとともに、長い歴史に育まれた伝統の技術・精神を守りながらも、現在の生活のニーズに合った商品を世に出すことで、産地の未来を切り開いている。

●所在地 大阪府大阪市東住吉区田辺6-6-15

●設立 1949年

●電話/FAX 06-6628-6731/06-6628-6735

●資本金 1,000万円

●URL <http://www.osakasuzuki.co.jp/>

●従業員数 32人

●代表者 代表取締役 今井 達昌



新技術の考案により販路拡大と作業効率向上を実現

若手職人も可能なさまざまな模様考案や、内側に模様を入れる技術の開発とその技術を活かした鋳型製作により、メンテナンスや作業工程の短縮に成功した。また、複合素材の鋳型開発により、作業効率向上、コスト削減を実現し、鋳造後に二次加工を行う錫器の分野にて国内シェアは約75%まで向上し、業界全体の売上を約2倍に押しあげた。また、鋳型の開発により大型製品製造が可能となったことで、大相撲の優勝記念品等の製作も始まり、現社長就任時（2002年）と比較し、同社の売上は4倍以上となった。



開発した鋳型で製造した大型製品

製作体験による若手後継者確保と若手職人の力を育てる工夫

同社が中心となり錫器事業協同組合で芸術・工芸系の学生に製作体験を行うことで就職希望者が増えた。同社では若手職人が理論と経験を身につけるため、ビジネスマナー等に加え、百貨店から講師を招き接客研修を行っている。さらに、展示会等の参加で顧客とのコミュニケーション能力を磨くとともに顧客ニーズの収集の機会を持たせている。技術面において伝統工芸業界では「5年タダ飯」といわれるところ、「3年で半人前」に育てている。半数以上を占める若手社員が管理職・経営者と意見交換を重ねる機会を設け、社内改善を行っている。



若手職人が考案したタンブラー

作り手からの発信と時代のニーズにあった商品開発

大阪浪華錫器の新たな可能性を広げるため、時代のニーズにあった商品開発・製造に注力している。また、カタログチョイスへの伝統マークの貼付を進んで行うことや、2009年から開催している、全国の超一流職人を集めた凄腕職人街展で、伝統的工芸品の良さを広めている。その活動から、輪島塗等の他産地とのコラボ商品が数多く生まれ、百貨店や海外等から注目を集めた結果、ECサイト販売に繋がっている。このコラボ商品の技術を活かし、G20大阪サミット2019で各首脳・閣僚がつけたバッジ製造も行った。



G20大阪サミット2019のバッジ